

# 自治体改善の輪 通信 2020 No12

11/6(金) 自治体改善ステップアップセミナー2020を開催



## 公民連携をテーマに ウェブでのセミナーを開催

### 地域の課題を公民の連携により解決につなげる

自治体改善マネジメント研究会では、複雑化、多様化する行政課題を解決するため、各自治体でトップダウンの改革とボトムアップの改善運動とをうまく連携して、首長、職員、住民がともに力を合わせて経営力を最大化していく取組を支援しています。

今回は、最近増えている公民連携の取組を進めるにあたり、地域全体のビジョンや戦略を実現する行政経営にうまくつなげて相互の効果を高めることを目的に開催しました。

セミナーでは、本研究会で探った都市の深層的課題を公民連携の実践によって解決しようとしている大東市の事例をもとに、その意図・プロセスを検証する「第一部 事例研究」と、参加者が現在進めている取組について、研究会で開発した改善ステップアップシートを活用して取組課題を読み解くチェックをし、グループで共有、対話する「第二部 ステップアップ研修」の2部構成で実施しました。

### 第一部 事例研究「大東市における公民連携と行政経営の接点を探る」

大阪府大東市では、総合戦略に位置付けた公民連携を推進するため、2015年度に横断的組織として地方創生局を設置し、第三セクターである大東公民連携まちづくり事業株式会社と連携し、公営住宅の建替を契機にしたエリア価値の向上、道路空間を利活用したナイトマーケットの定期開催、オリジナル体操を核にした地域健康プロフェッショナルスクールの運営など縦の分野別事業を、「公民連携」という横糸で紡ぎ直したそうです。

2018年3月には、全国初の「公民連携に関する条例」を制定。公民連携及び公民連携事業を法的に定義づけて、「公民連携事業」の定義を明確化し、市の全体方針として位置付け、施策・事業の立案にあたり検討するプロセスを明確化しました。

このような経緯も説明いただき、実践してきている東さんから見た市民気質として、過去の2度の水害から、どうせ何をやっても無駄となるという感覚が染み付いていたそうです。

市民の実態として、自分事として自分の作った町に住むことの成果が見られなければ動かないことから、小さくても良いので、成功体験ができるまちづくりのきっかけが必要と考え、その現状を打破する解決策として、「公民連携」という手法は、市民の活動と親和性があったことで、このような実践につながっている実情もお話いただきました。



### 第二部 ステップアップ研修「公民連携における取組課題を探索する」

第二部では、参加者が、各々の自治体の取組課題を洗い出し、その解決に向け、今後どのような方向で展開すべきか、ステップアップシートを活用して自分の組織の状況を再確認した上で、意見交換を行いました。

ステップアップシートには設問項目があり、参加者の各自治体の状況をステップアップシートに沿って回答し、回答内容を報告し合い、意見を交わしました。

その内容をいくつか紹介します。

設問：あなたの町の地域のめざす将来像を公民連携のパートナーと共有しているか  
各自治体の状況：

- ・総合計画、マニフェストにも書かれている公民連携の方針は、パートナーと共有できているが、むしろ市



役所庁内で溝がある

- ・ 総合計画の位置付け自体が不明となっているケースがある、一部関係者しか分からないと方向性を見失う

設問：公民連携事業の推進にあたっては、関係部署と連携して進めているか

各自治体の状況：

- ・ 公民連携を進めないと仕事が進まない、担当業務自体が公民連携に関する部署である
- ・ まちづくりを考える部署との連携を進めている

- ・ オフィシャルでも、プロジェクトとしても、課題共有を庁内外で進めている
- ・ 条例化したことで、民間提案しやすくなり、随意契約保証型提案制度を謳っている
- ・ 公民連携室は、関係部署と連携すること自体がやること、連携せざるを得ない組織体制にしている

職場の現状と公民連携の方法について、自分の職場組織の状況や取り組み内容も説明しながら全体で可視化、共有していきました。

どういった状況の時ほどのレベルをめざすか、目標達成に向けて住民と一緒に意識を共有し進行管理をしていく。そういった対応が、行政には求められるということを参加者同士共有できたのではないのでしょうか。

## 公民連携の先にある解決すべき課題を住民と共有する、公民連携は地域を変えるきっかけ

最後に、今回のセミナーに参加した皆さんから、ご意見、感想をいただきました。

- ✓ 公務員はどこか公平平等に刷り込まれているところがあり、公務員が考える公平平等も考え直さないと感じた
- ✓ 公務員だから、役所だから、何でも公平・平等と勝手に思っていた
- ✓ 参加者の民間からの視点、厳しい意見をいただいた
- ✓ 事務事業評価を行っていない、人事評価と連動していない点など改善点がある
- ✓ 公民連携の先にあるものは、地域を変えるきっかけとして活用すること
- ✓ 住民と関わる中で、断片的にはなくトータルで関わることで、職員はプロデューサーになっていただきたい、実践で身につけていかないと
- ✓ 住民自身がどうやって移住者に門戸を開き、まちづくりに参加してもらうかという大きな課題
- ✓ 役所もそうだが、地域も変わらなければと感じた

## 町の課題解決の新たな可能性に気づく場

町の課題解決の手法として公民連携をテーマにした、コンパクトなオリジナルの手作りウェブセミナーではありましたが、各自治体が国など外部に依存せず、町に暮らす住民力を活用した課題解決の取り組みは、これまで補助金頼みのまちづくり施策を進めてきた自治体には、意識の転換であるとともに、大きな可能性に気づききっかけの場となったのではないのでしょうか。

多くの自治体では、少子高齢化が進み、リソースが限られてきている現状からすると、住民力は、可能性を秘めた「人脈・金脈」ではないのでしょうか。

現状ではコロナ禍で活動は限られてしまっていますが、今後も研究会では、自治体改善活動事例の研究結果の情報発信をはじめ、今回使った「ステップアップシート」の活用トライアルや、セミナーの実施などを通じ、よりよい役所づくり、地域づくりを支援していきます。



(文責：長野県須坂市 寺沢)